



2021
7月

園だより

認定こども園 下関短期大学付属第二幼稚園
山口県下関市彦島塩浜町2丁目2-21 ☎ 083(266)5821

水の事故から子どもの命を守ります

東京オリンピックがいよいよ始まります。新型コロナの不安がある中ではありますが、開催される以上は日本代表のアスリートを応援したいと思います。このたび五輪代表に内定している競泳の瀬戸大也選手。彼は幼少の頃、実は大の水嫌いだったそうです。お風呂で髪を洗う時も顔に水がかかっただけで嫌がったと聞きます。それが一流の競泳選手になるわけですからすごいですね。



さて、園でも水遊びが始まりました。コロナ対応でやや抑え気味ですが、プールから聞こえる子どもたちの歓声は、まさに夏の風物詩。今年は、春先にプール横の木を伐採したので、見晴らしや風通しがよくなり、快適に水遊びができます。水遊びの目的は、大きく2つあります。

1 水の事故から命を守る。

右の表は、水難事故の統計です。毎年全国で幼い命が水の犠牲になっています。昨年も、県内のキャンプ場で3歳の子が犠牲になる悲しい出来事がありました。

7～8月における水の犠牲者数

(警察庁調べ)	令和2年	令和元年
未就学児	4人	3人
小学生	7人	11人
中学生	5人	0人

元来、子どもにとって夏の水遊びは最高の娯楽です。水を見ただけで衝動的に近付いていく子もいます。逆に、幼少期の瀬戸選手のように顔に水がかかるのを極端に怖がる子もいます。「育てにくい子にはわけがある」(大月書店)の著者、作業療法士の木村順氏によると、水を怖がる子は何らかの感覚防衛反応が働いているそうです。例えばシャワーの水しぶきや冷水の感触に対する「触覚防衛」、シャワーの音や水の音に対する「聴覚防衛」、プールの塩素の臭いに対する「嗅覚防衛」などです。水中で両足を浮かせると「平衡感覚防衛」が見られ、ちょっとしたパニック状態になったりもします。このような防衛反応に対して、それをコントロールできる力が必要となります。この力は水の中でしか身に付きません。ですから、幼少期のうちに水で楽しく遊び込むことが必要になってきます。水に慣れるとともに水を侮らないことも覚え、水の事故から自分の命を守ることにつながるわけです。泳力については小学校に任せましょう。

2 脳の働きをアシストする。

水の中では浮力が働き、体が軽くなるため、関節への負荷は減ります。でも、水の抵抗を受けてしまうために思うように体を動かすことができません。同じ走る運動でも、プールの中と陸上とは全く違います。陸上での走り方を水中で行うと、必ずと言っていいほど前に倒れます。そこで、水中でのバランスを考えるようになります。陸上では使わない筋肉を無意識に使うようになります。冷たい水の心地よさを感じながら、水の重さ、音、バランスの取りにくさ、力の加減など様々な感覚を認知し統合させながら、楽しく全身を動かすことにより、脳の働きをアシストします。と同時に、筋肉の可動域を広げ調和のとれた体をつくります。

もっとも、夏の暑さの中で、家族や友達といっしょに楽しく遊ぶことが第一の前提条件です。そして、新型コロナウイルスに対しては、今年も少人数指導を行うなど感染防止対策を講じるとともに、毎日のプールの水質管理を徹底し、さらに職員も消防署員による心肺蘇生法の講習を受けるなど、安全対策に万全を期して行っています。

(園長 寺本 明生)